グローバルキャリア実践実習に参加して

木 田 滋 朗
Shigeaki KIDA
数理情報学科　3 年

1. はじめに

私は 8 月 7 日から 8 月 24 日までの 3 週間，アメリカのカルフォルニア州ロサンゼルス，サンフランシスコ及びサンノゼでのグローバルキャリア実践実習に参加しました．最初の四日間は，シリコンバレーとロサンゼルスを往復し，IT 企業訪問視察と，他大学の学生や日本人留学生を交えた学生フォーラムや海外勤務の日本人ビジネスパーソンとのキャリアフォーラムを行いました．そして，残り約 2 週間ホームステイとともに，インターンシップとして Miraizon 社で実習を行いました．

2. 目的

今回，私がこのプログラムに参加した目的は，英語力の向上を除いて大きく二つあります．

一つ目は，自分を変えたかったからです．それまでの私は，人前に立つことが苦手で，大きい行事や役職からも極力避けてきました．しかし，三回生になって社会人になるまでの猶予期間が少なくなり，はたして今の自分がこのまま社会人となっても大丈夫なのかどうか心配になりました．そこで，このプログラムが自分を見つめ直し変えることのできるきっかけになればと思いました．

二つ目は，幅広い視野を身につけることです．日本という国に生まれて当たり前だと思っていた感覚や日常が海外ではどう変わってしまうのか，そこでの人々は日本や日本人のことをどう思っているのか，彼らの価値観は一体何なのかなどの答えを実際，異文化に触れることで知りたいと思いました．

3. グローバルキャリアプログラム

ロサンゼルスで行われた学生・キャリアフォーラムは，私にとってとても大きな刺激になりました．

学生フォーラムでは，関西大学，近畿大学，中京大学など他大学の学生らに加えて，日本人留学生やアメリカ人学生と英語でグループディスカッションを行いました．そのときのテーマは，自分の人生における価値観がメインでしたが，私は周りの学生の意識の高さにとても驚かされました．皆一人ひとりがしっかりとした考えや夢を持ち，積極的に意見をぶつけていました．また，今まで大学の講義に出て試験でいい点をとることしか目指していなかった私に，いかに主体性やコミュニケーション能力が大事であるか思わされました．

キャリアフォーラムでは，ロサンゼルスで勤めている日本人の方々から，目標への歩み方や人生観などの話を直接聞くができました．話の中で思ったことは，アメリカで働くというのは実はそう難しいことではないということです．それまで，海外で働くというのは，特別な人がやることで自分とはまったく関係のないことだと決めつけていました．しかし，渡米した理由などを聞いている中で，案外自分でもできるのではないだろうかと感じました．大事なのは，それを思うだけではなく，計画を順序立てて実行に移せるかだと思いました．

4. 企業実習

私の実習先は Miraizon というデジタルメディアソフトを扱う会社で，アメリカのカルフォニア州シリコンバレーに本社を構えています．現在, Miraizon 社は Cinematize 3, Cinematize 3 Pro, Reframe の三つの主力商品を提供しています．Cinematize 3 とその上級者用の Cinematize 3 Pro は高品質の DVD 取り出し・変換ツールで，DVD から音声やビデオクリップを取り出し，様々な形式に変換することができます．Reframe はプロ仕様の高画質ビデオ変換ツールで，ビデオや音声を編集可能な形式に変換した

り，プレゼンテーションや YouTube 掲載，iPod や iPhone で視聴するのに適した形式に変換したりすることを可能にします．会社の従業員は，アメリカ人男性と日本人女性の夫婦の二人で，たまに臨時のバイトも雇うそうですが，基本二人だけでソフトの開発，経営も行っています．ソフト会社の割に少ない人数ですが，販売している製品は多くの人や企業で使用されています．

そこで，私が主に任された仕事は Cinematize 3 Pro をバージョンアップした，年内に発売予定である新商品のテストでした．まずその商品の取扱説明書を読み，やり方が理解できたら，実際にパソコンにソフトをインストールして，与えられたテスト項目をチェックしていきました．テスト項目は様々で，映画のタイトルや再生箇所を変えたり，動画や音声や字幕のタイプ，環境設定を変更したり，音声とフイルムを別々に分けて保存したりしました．その結果，バグを数か所見つけ，社員の人に随時報告して，それらを直してもらいました．私自身も見つけたバグを直すのを手伝いたかったのですが，そのソフトの言語は私が今まで扱ったことのないものだったので，叶いませんでした．

バグを見つけるという作業は，何百，何千通りというパターンでテストを行い，単調で労力の要るものでした．しかし，その中でいくつかだけでもバグを見つけることはとても大事なことであると知りました．ソフトが良い製品であるかどうかは，バグがいかに少ないかで決まるとされています．どんなに良い有名なゲームやアプリにも必ずどこかにバグは存在し，バグなしのソフトはあり得ないそうです．私はバグを少しでも見つけるために，奇抜なパターンや，より多種類な組み合わせを試しました．そして，バグを複数見つけたことで，ソフト開発の品質向上においては，完成してからのテストの回数の積み重ねが重要になると実感しました．

図 1　仕事場の写真

5. 実習を終えて

普段，大学で学習しているプログラミングが実際にどのように扱われているかが知れて，とても良かったです．まだまだ，自分が現場で働けるレベルには達していないということを痛感しました．

実習を行った企業は，夫婦で立ち上げた会社で小さかったですが，少ない人数だからこそ自分達がする仕事の範囲は大きく，やりがいが感じられるように思えました．それは，仕事が細分化される大企業には無い魅力と言えます．また，自分で会社を立ち上げることは日本ではあまり見られず，アメリカのそうしたフロンティア精神は見習わなければならない点だと思います．アメリカでは，「自分は会社に雇われている」のではなく，「自分がその会社を使っている」と考えている人が多いそうです．ただ単に社会に身を任させて流れていくのではなく，自分から何かしてやろうという姿勢を常に持っておくが大事だと学びました．

6. これから

私は，この実習を通して，自分には主体性が足りていなかったと分かりました．これからは，自分を磨くための目標を一つ一つ掲げ，常にそれを意識して実行していきたいです．そして，ポジティブに生きていきたいと思います．また，アメリカで得た価値観は様々なものがあり，日本と反対のこともありました．だからといって，それまで価値観を捨てるのではなく，良いと思う所は残して，その上に新しいものを積み重ねていきたいです．